

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	2392400079		
法人名	株式会社Lily's		
事業所名	グループホームごんの里 椿館		
所在地	半田市岩滑中町2-22		
自己評価作成日	平成28年1月1日	評価結果市町村受理日	平成28年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2392400079-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号
訪問調査日	平成28年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人間らしく、アットホームな環境を提供している。時間に追われることなく、ゆっくりとした流れを感じていただけるよう、お年寄り本意の生活を心がけ、動きのある生活を送っていただいている。お年寄りの方との外出を多く取り入れ、買い物、喫茶店、外食等、気軽に行けるところはほぼ毎日出かけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の思いである「施設ではなく家」であるとのコンセプトのもと、ホームは木を基調としており、開放感があるリビングや採光に優れた環境でもあり、利用者が圧迫感を感じないような配慮が行われている。利用者は笑顔が多く、リラックスした雰囲気です生活を継続できるように、職員間でその方に合わせた支援を考えている。ホームの2つのユニットは別棟となっており、ユニットが単体で独立をしており、ユニット毎に食事のメニューや外出支援等が行われている。地域の方との協力体制が密に行われており、ホームでの避難訓練の際には地域の方が参加し、地域の災害訓練ではホームからも参加している。また、個別外出にも力を入れており、利用者の希望を把握しながら、誕生日には仲の良い利用者と一緒に外食に行く等、利用者の思いに合わせた支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームな環境で『施設』ではなく、『家』でお年寄りと共同生活をしているという意識を持って生活している。	ホームでは理念を設けていないが、管理者は「施設ではなく家」という考えを基本としており、アットホームな雰囲気作りに心がけるよう職員に伝えている。また、管理者の基本的な考えは、家族にも伝えるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほぼ毎日の散歩、地域の行事には積極的に参加し、地域に根付いていけるよう努力している。	町内会に加入し、日常的に近隣住民の方から行事の情報を得ており、地域のお祭りや災害訓練に参加している。また、地域の催しでもある「ふれあい会」にも参加し、地域の方との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に行われる福祉ネットワーク等の会合に参加し、一般の方たちにも認知症の方に対する理解を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議で、地域の方にも参加していただき、行事報告や施設の現状など報告している。	会議には、地域の方の出席が得られていることで、地域に関する情報を得る場ともなっている。また、会議では写真を活用し、日々の状況を細かく報告することで、ホームへの理解を深めてもらう工夫を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に1～2名参加していただき、常に実情を伝えている。	管理者は、定期的に利用者の入居情報の報告を兼ねて市役所を訪問しており、情報交換を行っている。また、市より依頼されサポーター養成講座等に協力しており、認知症とはのテーマで話しをした経緯がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は常に開放しており、身体拘束は一切ない。	身体拘束を行わない方針であり、玄関等の施錠は行われていない。会議を通じ、身体拘束に対する勉強会を実施し、職員の理解を深めることで身体拘束のない生活を実現し、利用者の自由な生活を支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員持ち回りで勉強会を開催し虐待に対する知識をもってもらうようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ実績なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族に説明し、入居後も疑問点があればすぐに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、家族の意見を聞き、また定期的に家族会を開催して、意見交流の場を設けて反映している。	年1回の食事会に多数の家族が参加しており、管理者は家族との意見交換の場としている。また、誕生日会には家族が同行され食事に行かれる等、家族との交流を深める取り組みも行われている。また、定期的な便りの発行も行われている。	家族宛に利用者の近況を報告する便りを作成し、運営推進会議や面会に来られない家族に近況を報告する取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1度、職員会議、カンファレンスで職員の交流を行い、反映している。	管理者は、毎月の会議、カンファレンスを通じ、利用者のケア面、運営面等の話し合いを職員と共に行い、意見を把握し、運営への反映に努めている。また、賞与支給の際には個別面談を実施し、職員の意見を把握する機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の交流が盛んなため、職場の環境について、良いことも悪いことも話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の良いところは褒め、伸ばせるところはのばしていけるよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる会合に積極的に参加させてもらい、得た知識を職場に持ち帰って実践できるようにしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見を尊重して、不安などを受け止め、困っていることがあればその場で傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の段階で家族の困っていることを聞き、入居後すぐに実践できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方の意見を取り入れ、今をいかに生き生きと過ごせるかを前提に話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしているという意識ではなく、一緒に生活をしている、させていただいているという意識を常に持つよう職員に伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を敬う家族が多いため、家族の想う気持ちを大切にし、慎重に話し合いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が以前勤めていたところや、昔行きつけだった喫茶店やスーパー、知人が勤めているところに外出として職員を一緒に行ったりしている。	職員は、生活歴を知る事で、馴染みの関係を把握につなげている。利用者の誕生日の際には個別外出として、馴染みの場所に出かける等、関係継続に努めている。また、家族の協力を得ながら墓参りや床屋等にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームでは珍しく、入居者同士での会話が垣間見え、お互い支えあい、たまには喧嘩をしたりととてもいい雰囲気生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、家族会等、行事に参加して頂けるようお知らせしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とスタッフがのんびり話す事のできる時間があるため、本人の希望を伺いながらケアをすすめている。センター方式を活用し、本人の希望、意向を記入しているが、更新頻度が少ないことが課題。	職員は、アットホームな雰囲気づくりを心掛けながら、利用者の思いや意向等の把握に取り組んでいる。また、把握した利用者の思いや意向等は、連絡ノートや月1回のカンファレンスを通じ、職員全員が情報を共有出来るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、生活歴等の項目をご家族に直接記入して頂くようにしている。記入された内容はいつでも見ることができ、サービス担当者会議等でも話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録にて1日の様子、心身の状態等を記入し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会にみえたご家族から意向を確認したのち、サービス担当者会議(スタッフ全員参加)を開催している。会議は、専用のアセスメント及びモニタリング用紙に使用して進め、可能な限り本人及び本人に係る者の意見も介護計画に反映している。	介護計画については、基本6か月毎に見直しを行っており、状態の変化がある際は随時の見直しを行っている。また、家族との面会を行うように取り組んでおり、モニタリングについても計画の見直しに合わせて実施している。	介護計画の内容を職員間で把握につなげ、日々の生活状況を介護記録として記録し、計画内容のチェックや見直しにつなげることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の様子や支援内容を記入し共有している。可能な限り細かい内容も取り上げて介護計画に反映し、計画は3ヶ月毎(1ヶ月後)に必ず更新している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域行事への参加を積極的に行い、地域の方々と共に本人を支えられる体制作りを目指している。ホーム内行事へのお招きや家族交流会の開催などにより、ご家族から意見を頂きやすい環境にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事近隣スーパーへの買い物等、できる限り資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	少しの状態の変化も逐一、主治医に連絡し、指示を仰いでもらっている。時には写真をメールで送り、それをみて判断してもらっている。	協力医による訪問診療が月に2回あり、状態に応じ休日、時間外の対応も可能である。また、協力医以外の受診も可能であり、家族が受診できない場合はホームで支援し、家族への情報提供も行われており、医療面での連携につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に介護職員と連絡、相談を行い、月2回の往診時には必ず同行するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を中心に医療機関と連絡を取り合い、定期的に行われる医療関係との会合にも積極的に参加し、関係を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、しっかりと説明したうえで、同時に他施設へ入居の申し込みをしてもらっているご家族もある。	利用者、家族の希望や意向に合わせた看取り支援にも対応している。利用者の状態に変化が生じた際には、家族との話し合いを重ね、現段階で出来る支援や今後の方向性を確認している。看護師も雇用されており、看取り支援に対する体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、デスクには常に目のつくところにおいてある。また、新人職員には緊急時の対応についてしっかりと説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防点検、年に2度の避難訓練には職員全員が消防署の協力も得ている。町内の防災訓練にも積極的に参加している。	年2回の避難訓練では、夜間を想定した訓練や通報装置を使用したり、消防署の指導のもと、避難経路等の確認等も行われている。地域の方も訓練に参加しており、協力体制にも取り組んでいる。なお、備蓄品は準備を進めている段階である。	災害に関する意識が高い地域でもあり、地域の方とは相互に訓練に参加し、協力体制を築いている。備蓄品の確保と合わせ、より良い関係が継続できることを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に同じ目線で声かけるよう心がけている。言葉づかいには特に注意し、職員同士でも声かけあっている。	管理者は、日頃から職員の様子を確認し、必要に応じリーダーを通じ注意を促し、助言等につなげている。また、「笑顔、あいさつ、言葉遣い」への配慮を基本にしながら、職員の振り返りや意識向上につなげ、利用者の尊厳が守られるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	嗜好や外出など、常に利用者のニーズを受け入れるようにしている。何気ない会話から本人の希望を聞きだすことをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の意思を受け入れ、外出なら本人の希望されるところにお連れし、入浴なら入りたい時間に入って頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際には、お化粧をしたり、外出の際には普段は着ない服を着ておしゃれしたりと身だしなみにも配慮している。女性入居者の方は、家族に依頼して美容院に連れて行ってもらっている人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に合わせて、一緒に買い物に行き、好きなものを買って提供している。食事の準備、片づけはほぼ毎日手伝っていただいている。また、誕生日には本人の好きな食事を提供している。	ユニット毎に利用者の「好み」や「要望」に応じ献立を考えており、利用者も調理、盛り付け、配膳等を職員と共に行っている。また、専門の方による「ラーメンの日」を設けたり、外食に出かける等、食事を楽しんで頂ける工夫が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や、塩分量に制限がある方には少なめにし、減塩の食事が必要な方にはそのように提供、調理している。水分量、食事摂取量は毎日記録にて確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者全員口腔ケアを行なうようにしている。自分でできる方は声かけ、見守りをしている。本人にあった口腔ケア器具を使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ類は極力少なくし、人間らしい生活を送って頂くよう支援している。無理強いせず、記録などを見て排泄パターンを把握したうえで支援している。	排泄チェック表を使用しており、利用者の排泄状況を職員間で共有につなげ、トイレでの排泄を支えている。また、便秘の利用者に対しては、医療面での連携や利用者によりセンナ茶で対応をする等、その方に合わせた排泄を支えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方が数名いるため、水分強化や、センナ茶、トイレでの工夫等、主治医の指示をもらいながら本人に合わせた予防法を導きだすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後、夕食前、夕食後など、今までの入浴時間を本人、家族から情報を収集し、希望にそって入浴していただいている。	入浴は週3回以上であるが、利用者の要望に応じ毎日の入浴も可能である他、夕方からの入浴も可能である。檜の浴槽であり、香りを楽しんで頂くため、入浴剤を使用していないが、菖蒲湯等の季節の入浴の楽しみは行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に日中は活動してもらうようにしているが、本人の状態、表情を見て、居室で休んでいただいている。起床時間も本人の生活に合わせて起床してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルはもちろん、飲んでいる薬の名称、効能、副作用を網羅した表を作成していつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じて、できる範囲で行っている。役割を持ってもらい、満足感を得られるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車いすの方でもなるべく外出してもらえよう、事前に計画を立て、職員配置をしている。買い物や、喫茶店、外食は行ける日、行ける方はなるべく参加している。	日常的に散歩、買い物支援を中心に外出をしている。利用者の誕生日の際には、仲の良い人同士で外食に出掛けたりと希望に応じた外出にも対応している。また、季節に合わせた花見や地域の盆踊りに参加する等の外出にも取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時はなるべく本人に払っていただいている。全員事務所で小遣いは管理しているが、本人持ちの小遣いも持っている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人に手紙を出したり、電話したいという方には職員が援助し、本人の希望にそえている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はすべて木を使用し、特にお風呂は檜風呂を使用している。季節によってホーム内の至る所に花を生けたり、飾ったりしている。	リビングは木を基調として建築されており、天井を吹き抜けにしていることで、開放感ある雰囲気となっている。窓を広く高く取ってあることで採光にも優れている。また、リビング内には、習字等の利用者の作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は主にリビングでテレビを見たり、食堂で談話したりと、動きのある生活を取り入れている。独りになりたい方は希望にそえて居室に誘導している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けはエアコンのみとし、ベット、タンス等すべて今まで在宅で使用してきた使い慣れたものを持ち込んでいただくようにしている。畳が希望の方にはベットではなく畳を使用していただいていた。	居室には、利用者の馴染みの家具類、テレビが置かれており、趣味の作品、家族の写真を飾られており、利用者の思いに沿った居室となっている。また、希望があれば、生活習慣に合わせ、畳部屋とし布団で過ごすことも可能である。、	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新聞をいつでも閲覧できるようリビングに置いてあり、食事作り、洗濯物たたみなど、入居者を生活に巻き込むことを心がけている。		